

携帯電話の買い換え

6年間使っていたスマホ (iPhone-6)が急に充電できなくなった。少し詳しく記すと充電して100%の表示で安心して外出し、電話をかけようとするすると充電不足のマークが出る。持参していた充電器で充電するとすぐに100%になる。しかし、充電器から離すとすぐに充電不足となる。ドコモショップに駆け込むとバッテリーの寿命だという。ものには寿命があると実感、自分も例外ではない。

メーカー (アップル社) で充電器の交換をして貰うか、買い替えをするか、ということになった。充電器の交換を試みたが手続の煩雑さに疲労困憊した。再び、ドコモショップに赴いた。午後4時を少し回っていた。予約なしの顧客の待ち時間は長い。担当してくれたのはベテラン社員であった。事情を説明した。価格15万円以上のiPhoneはもはや手が出ない、私の能力と状況を把握したその店員が勧めてくれたのが「あんしんスマホKY-51B」であった。

彼は適応できる割引は全て込めますから安心してくださいというような事を言った。機種決定までは10分とかからなかった。購入の手続きは窓口で別の担当者が変わった。必要な手続きは手捌きよく、気持ちよいスピードで進めてくれていた。実はこの段階でも私はこの機種の価格がいくらかは分からなかった。購入に必要な書類上の手続きが30分程かかったところで担当のスタッフが値段を言ってくれた。消費税込めて57,376円と言われた。36回の分割払いが可能だという。途中解約の説明もあったようだが一所懸命にして処理を進めてくれているスタッフの姿を見ていると全て任せることにした。

下取り価格8,000円、機種変更応援プログラム適用7,200円等々、結局月払いは1000円程度になって安心した。確かに「あんしんスマホ」だと思った。5時半を回っていた。これから旧機種から新機種に変わるで続きに入る。ところが6時30分を回ってもうまく行かない。他のスタッフは閉店の片付けに入っている。顧客は私一人、11月半ばのその日は温度が高かったので全館冷房が入っている。私は震えていた。

その時私は気づいたのだ。これは初期不良かも知れない。どうやらそのスタッフも私の一言に気づいたらしくメーカーに電話をし、その指示にしたがって操作をするがうまく行かない。私は可哀想になって「明日でもいい」と何度も言ったが、責任感の強いそのスタッフは場所を変えて懸命に操作を続けた。7時30分位になった。他の社員が早く帰りたいという気持ちが伝わってくる。とうとう、そのスタッフは「明日、私は休みです。きちんと引き継ぎをしますので明日にしてくださいますか」と言った。勿論私も承知して次の日の

予約を取って店を出た。8時前であった。この日は妻との約束があり6時過ぎから妻も同席してくれていた。

初期不良との戦い

次の日、予約の時間に合わせてスケジュールを調整した。新しいスタッフが担当者となった。スキルは高かった。引き継ぎを始めてくれた。しかし、あと一步のところであまりうまくいかない。昨日と全く同じことの繰り返し。1時間位を要した。私は繰り返し「初期不良だから機種を交換して欲しいと依頼した」。しかし、まだ聞き入れられなかった。初期不良は一旦消費者の手に渡ったら殆ど不可能な位、メーカーは応じない（これは多くの人たちが経験していること）事を知っていたので妥協はしなかった。2時間近くなってようやく別室で協議がはじまった。その結果、初期不良を認めることになった。しかし、店には在庫がないので隣のストアから取り寄せるという。待つ以外にない。一旦店を出て書店で時間を過ごした。約束の時間に訪問したとき、作業は続いていた。いよいよ私の手に渡す瞬間になってテストをさせてもらった。

一つ目のテストはうまくいった。二つ目のテストではうまく行かなかった。それを見ていたスタッフがある原因に気がついたようだ。さすがベテランのスタッフである。すぐに修正に入った。メーカーに電話をしてその不具合を調整した。その日も4時間近く掛かってしまった。最後に私は静かに言った。「昨日からスタッフがこんなに困っている姿をみても責任者は誰も出てこない。私は責任者に会いたい。」これにもスタッフは困った顔をした。私は無言で待った。「少々お待ちください」と言われ10分程度待った。

やっと現れたのは副支店長だった。私は昨日からの事情を話した。誰もスタッフを助けないのを見ていて方が苦しい。「スタッフたちは正社員なのか請負社員なのか？」少々意地悪な質問をした。正確な返事は聞き逃したが、その場では謝罪があったので終わりにした。その翌日機種変更に伴う講習会があったので参加した。その時には前日のスタッフが再び謝罪の言葉をかけてくれたので、私も笑顔で対応した。

これで万事が終わるはずであった。しかし、3週間後、12月5日、親しい友人達との会食があつて妻と二人で久しぶりに東京に足を運んだ。友人からのショートメールが入らない。友人の携帯の記録では発信が確認できる。またしても同じ故障が発生した。ホテルに泊まり子供達とやりとりをして不具合を確認できたので翌日、東京の八重洲地下にあるドコモショップに駆け込んだ。店は違っても記録は共有できているので、それを参考にして東京のスタッフが同じように調整に取り組んでくれた。今度は40分程度で終わった。今も不安の残る「あんしんスマホ」である。

iPhoneからアンドロイドへの移行

スマートフォン（スマホ）には、OSが2種類あることは常識のようであるが、今回の私の選択はiPhoneから離れてアンドロイドに移行したことになる。後者はGoogle社が開発し

たものでランセンスフリー、前者はOSから端末製造まで全てAPPLE社が独占している。価格の開きがなければ私の年齢でこんな冒険をする人は少ないだろう。なぜならOSとは人間の脳に相当するので、今回は脳の入替えをしたことになる。こういう大転換をする場合は基礎から教えてもらうのが早道であることは経験が教えてくれる。私は買い替えた翌日には基礎講座を受けた。最高年齢であったことは確かである。そして初めの二、三日は戸惑いもあったが今は慣れて不便は感じない。ただPCがアップルであるのでその連動が完全ではない。長短それぞれだから年代に相応しい選択が望まれる。

減価償却年数は何年か？

スマホの償却は、あるメーカーは3年で買い換えることを前提にしているとネット上で書いてある。従って私の6年はメーカーの期待に応えていないことになる。税法上の減価償却年数は諸説あったらしいが4年で落ち着いているという。携帯電話（スマートホンというのは日本独自の呼称か？）の価格が非常に高騰して10万円を超える時代になったので事業者にとっては減価償却年数は気になるところである。

減価償却年数については最近、原子力発電装置の減価償却60年を超えるものも使えるようにするという政府の発表があった。休止期間を除いて実際稼働年数を60年超とするようである。休止期間は減価しないという政治的な判断である。物は自然劣化することは誰でもわかっていること。自然現象に政治が介入するのは日本ばかりではないが、温暖化や放射能汚染で地球の異常が目に見えてきていても政治家は先延ばしが好きなようだ。「先延ばし」なんと魅惑的な言葉だろうか。

事務機類の初期不良について

機器には当たり外れがあるということは周知のことであるが、この当事者になると腹立たしいことが多い。一旦所有権が購買者に移ってしまったら交換は極めて困難で修理の繰り返しになる。何度も修理を繰り返すと不安を持ったままその機種に付き合わねばならないことになる。特にネットで購入するものは注意が必要になる。かといって店頭で買っても同じことになってきている。

昔はお店と人間関係で結ばれていたから、物の間に人間が入って（絡み）不安の緩衝材になっていた。お店の人が親切に取り扱いを説明してくれた。今では「トリセツ」が理解できないと物は物の用を足さない時代、これも自己責任時代の一つの現れかもしれない。

国産品という安心感が持てるようになりたい

電子機器類は殆どが海外での生産になっている。あのiPhoneの生産地は本国ではないようだ。それがネームバリューによってか、性能が優れているからか分からないが高騰の先導をきって走っている。今回、私が購入した「あんしんスマホKY-51」のメーカーは京セ

ラで国産品だと言われた。私は今回の買い替えを後悔していない。最初は失敗が多いもの、それを育てるのも国民だと思っているから。

こんな話を聞き、私に付き添ってストアに行ってくれた妻は決して「ガラケイ」から離れようとしな。これも貴重な選択肢だと私は思う。

思い起こせば私がPCと携帯電話に取り組んだのは一線を引いた65歳の時であった。それまでは、何事もスタッフ任せで、口一つでPCが動かさせていた。それが自慢でもあった。しかし、引退するにあたり全ての手足がもぎ取られてしまった。しまったと思った時は既に遅し。ところが、そこから（底から）這い上がるのが根性、幸い誠実な後輩が私のPCの素晴らしい教師となり、身近な身辺まで面倒を見て指導し頂いた。そのご厄介は今もかけ続けている。このベストピアの掲載も、彼のお陰で続けられている。感謝です。

Mac bookProも3台目を用意して頂き、今ではキーノート（パワーポイント）に動画を載せて画面を構成して研修で活用している。若い人がビックリするほどの力を発揮してる。15年以上努力してきた成果である。来年もキーノートをフルに活用して分かりやすいフリップを作り次世代の人たちに必要なことを伝えていきたい。又そのような場が与えられていることが驚きであり、それゆえに深甚の感謝にたえない良き年が来年も続く。

今年も変化の多い年であったが12日には次のような発表があった。

2022年の世相を表す漢字は「戦」

日本漢字能力検定協会は12日、全国から募集し、最も選んだ人が多かった「今年の漢字」を発表した。募集期間は11月1日から12月5日で、22万3768票の応募のうち、「戦」は最多の1万804票だった。

年末になって「戦う」意欲も加速している。国防費の増額に国民の半数以上が賛成、それに伴う増税も同じ傾向にある。原発の建て替え推進、物価高騰の戦いは止まず。それでも内閣支持率は上昇気味。憲法第9条の改正の土壌は着実に進んでいる。平和を愛する人々はどう戦うか。覚悟が問われる。然りか否か。否をいう覚悟はできているかと恩師から問われている。

パリ通信・第132号

エネルギー問題

11月末からパリはシベリア寒気団が降りて冷え込む毎日である。朝晩はマイナス3-4℃、昼間も3-4℃を超えず「寒い」の一言だ。暖房なしでは凍えて生活できない。

ウクライナ戦争以来ヨーロッパのエネルギー供給は各国とも厳しい状態で、フランスも寒くなる前から「室内の暖房設定は22℃から19℃に下げる」、使わない部屋の電気は消す、使用しない家電をコンセントから抜く、屋外の飾りは極力避けるなどの節電が奨励されている。

市町村のレベルでもクリスマスのイルミネーションをしない選択、街灯の数は減らし早い時間に消す、温水プールを閉める、体育館や公共文化施設の暖房温度を下げるなど考えられるさまざまな対策を積極的に導入している。これまで自由に使ってきたエネルギーは無制限ではないことを目の当たりにする冬だ。

フランスには56の原発があり、これまでは電気の輸出国としてドイツなどに供給していた。2011年福島原発事故から原発大国フランスでも原子炉を閉める方向に向かっていった。今年の10月時点で原子炉の点検などを理由に56基の内26基が稼働中止していた。気温が下がるにつれフランス国内の消費も危うくなり、政府は計画節電の可能性を発表した。



フランスのシボア原子力発電所=ロイター

緊急事態に対応すべくクリスマスを十日後に控えた今日、停止26基中10

の原子炉が再稼働し国内供給を支えている。ウクライナ戦争でエネルギー自立を迫られたフランスは再び原発を選択する方向へ向かっている。ロシアはウクライナ各地のエネルギー源を攻撃し、電気のない暗くて凍える冬でウクライナ市民を苦しめている。まさにエ

ネルギー戦である。

ウクライナ戦争はエネルギー問題だけでなく、日常生活のすべてに影響している。穀物不足からパンや小麦製品値上がりし、電気代の高騰で生鮮食料を扱う業者は値上げせざるを得ない。



戦争に加えて、12月に入りコロナ、インフルエンザ、小児気管支炎が急増している。鶏インフルエンザも大流行で、クリスマス定番の鶏、フォアグラは昨年から30%近く値上がりしている。何もかもが値上がりし、

いつまで続くのか先が見えない。年金受給資格年齢を65歳に引き延ばす案を始め、フランスも問題山積だがクリスマスが終わるまですべて保留、保留、保留である。

何も良いニュースがなかった2022年、最後に急に盛り上がりを見せているのがサッカーワールド杯である。病気や故障ですぐに敗退するだろうと思われていたフランスチームが決勝に残った。2018年7月に続いてフランス二連覇なるか、最高のクリスマスプレゼントなどマスコミも大きく取り上げている。4年に1度のワールドカップはプロのサッカー選手にとってオリンピックの金メダル以上である。13日アルゼンチンがクロアチアを破り、14日フランスがモロッコに勝ち決勝進出を決めた。18日(日)16時からのアルゼンチン・フランス戦はフランス中がテレビ観戦するだろう。リオネル・メッシ対キリアン・エムバッペと今から盛り上がっている。個人的にはモロッコが決勝に残って、アフリカ大陸に初の優勝杯を持ち帰って欲しかったが残念だった。クロアチアとの3位決定戦に勝ってくれることを期待している。

スポーツが政治のプロパガンダになってはならないが、現実的には国威高揚の格好の手段になっている。地球温暖化で世界中がエコロジーを重視する傾向に反して建設されたカタールのスタジアム。砂漠の国のインフラ整備には巨額の出資が行われた。そして、その陰には安く悪条件で使われた海外の出稼ぎ労働者、建設中に事故で亡くなった作業員がいた。フランスでもカタール・ワールド杯をボイコットする動きがあったがフランスが勝ち進むに従ってその声も聞こえなくなった。ヨーロッパ議会のギリシャ女性議員エヴァ・カイリの賄賂事件(カタールが会場に選ばれるように多額の現金を受け取った疑い)など、大きなスポーツ大会には暗い影がある。こうした負の部分があっても18日(日)決勝戦をフランス中が楽しみにしていることに代わりはなく、勝っても負けてもシャンゼリゼ通りは熱い夜になるだろう。(古賀順子記、写真挿入は小原靖夫)